

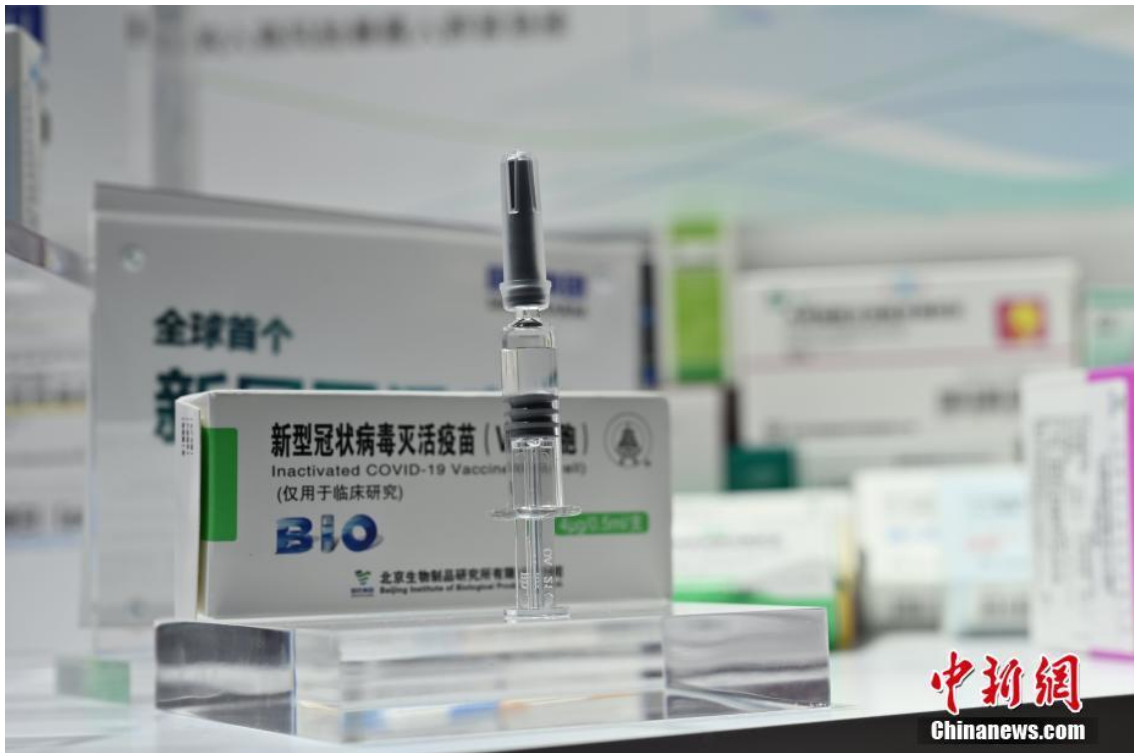
令和2年9月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

### 一般調査報告書

## 新型コロナウイルス肺炎の流行に伴う上海市内の状況について(8)



北京で開催された2020中国国際サービス貿易交易会で展示された新型コロナウイルス不活化ワクチン（出典：中国新聞社）

9月5日から9日まで北京で開催された「中国国際サービス貿易交易会（服貿会）」において、中国製新型コロナウイルス不活化ワクチンの実物が初公開されました。現地メディアによれば、このワクチンはまだ市販されていませんが、研究の最終段階である3期臨床試験に進んでいるといい、臨床ではアラブ首長国連邦、バーレーン、ペルー、モロッコ、アルゼンチンなど世界115の国・地域で5万人が既に接種しているとのことです。

新型コロナウイルスのワクチンを巡っては、8月にロシアが世界で初めてワクチンを承認したと発表したほか、米国を始め世界各国が開発を急いでおり、WHO（世界保健機構）によれば、いま世界で少なくとも120種類以上のワクチン開発が進められていると言います。

国境を越えた人の往来が大幅に制限されている今、ワクチンの実用化は停滞している世界の経済活動に大きなインパクトをもたらす重要な切り札となることが予想されます。ただその一方で、性急なワクチン開発に対する安全性への

懸念の声も上がっており、9月8日には世界の製薬・バイオ企業9社が、「安全性と接種者の健康を常に最優先にする」といった宣言を発表するなど、政治的なかけ引きと科学的・倫理的な信頼感との間で様々な思惑が錯綜しています。

今回展示された中国製ワクチンは、年内にも実用化される見通しとのことです。

## 1. これまでの主な経過

2020年

- 8月10日
  - ・遼寧省大連市は、市内全域が感染の低リスク地域に回復
  - ・上海市は、海外からの帰国者に対する検疫等の対策を強化
- 8月11日
  - ・中国自動車工業協会は、7月の中国内の新車販売台数を前年同月比16.4%増（211万2千台）と発表
  - ・習近平国家主席は、国民の飲食に関する浪費行為の抑制を指示
  - ・上海市で海外からの入国者（隔離中）から日本人1名の感染が判明
- 8月12日
  - ・本土からマカオへの観光旅行が段階的に解禁へ
  - ・上海市は、9月1日の新学期を前に、16日以降の生徒の市外への移動を禁止
- 8月14日
  - ・広東省深圳市で、スーパー店員の新型コロナ感染が判明
- 8月15日
  - ・6月に北京市でクラスター発生源となった「北京新発地農産品卸売市場」が営業を再開
- 8月17日
  - ・新疆ウイグル自治区の新規感染者が1か月ぶりに0人に
- 8月20日
  - ・北京市で、屋外でのマスク着用義務が解除
- 8月22日
  - ・在日中国大使館は、有効な居留許可証を所持する日本人の訪中ビザ申請の受理を開始すると発表
- 8月29日
  - ・北京市で小中学校などが段階的に登校を再開
- 9月1日
  - ・上海日本商工クラブは、成田-上海間のチャーター便の予約受付を開始（9月15日運航）
- 9月3日
  - ・中国民用航空局は、北京首都国際空港を目的地とする国際線の一部を再開（対象国：タイ始め8か国）
  - ・トヨタ自動車は、8月の中国内の新車販売台数が前年同月比27.2%増の16万4,400台と発表（5か月連続のプラス成長）
- 9月4日
  - ・中国政府は、中国内の8月の洪水被害が被災者延べ1,144万9千人、直接経済損失413億5千万元（約6,350億円）と発表

中国の国内感染状況：累計感染者数85,146人（9月9日現在）

累計死者数4,634人（〃）

※ 感染者数の数値は、中国国家衛生健康委員会の各日24時現在の公表データによる。なお、「国内」には香港、マカオ、台湾は含まない。

## 2. 上海市内の状況

7月5日、江蘇省蘇州市において、中日(蘇州)地方発展協力モデル区の除幕式が開催されました。次いで、7月21日には、上海自由貿易試験区(自貿区)において、中日(上海)地方発展協力モデル区の除幕式が執り行われました。

いま、中国の各地で、日本をターゲットとした「中日地方発展協力モデル区」の開業・着工プロジェクトが続々と動き始めています。

中日地方発展協力モデル区は、中国政府が国内6つの都市に認可された中日地方協力の新モデル創造の拠点となる、ハイレベルの開放モデル区です。6つの都市は、上海市、江蘇省蘇州市、四川省成都市、天津市、遼寧省大連市、山東省青島市となっています。このうち成都市は唯一の内陸都市であり、残る5都市は沿海部の発展地域に位置していますが、各都市のモデル区はそれぞれの特色を持っています。

中日地方発展協力モデル区

	モデル区名	地域	重点分野
1	中日(上海)地方発展協力モデル区	上海市臨港新片区	水素エネルギー産業
2	中日(蘇州)地方発展協力モデル区	江蘇省蘇州市相城区	スマート製造産業
3	中日(成都)地方発展協力モデル区	四川省成都市高新区	文化クリエイティブ産業
4	中日(天津)健康産業発展協力モデル区	天津市静海区	健康産業
5	中日(大連)地方発展協力モデル区	遼寧省大連市	ハイエンド装置製造、新材料産業
6	中日(青島)地方発展協力モデル区	山東省青島市西海岸新区	省エネ環境保護産業

政府の認可した各モデル区は、重点分野の重複による競争を避け、各々の地域の強みを生かした産業の発展を促す形になっています。これらの役割分担は、今後、日本企業が中国進出を考える上において、現地のサプライチェーンや市場の適性を判断する際の一つの参考になるものと思われます。



7月5日に行われた中日(蘇州)地方発展協力モデル区の開業式典

華東地域において先陣を切って行われた江蘇省蘇州市の中日（蘇州）地方発展協力モデル区の開業式典では、現在建設が進んでいるイノベーションエリアの詳細計画も説明されました。（下記参照）

**（参考資料）※ 蘇州市相城区提供**

中日（蘇州）地方発展協力模範エリア概要 (PDF1, 544KB)

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。